

三陸新報

三陸新報社
〒988-0141
気仙沼市松崎柳沢228-100
電話 0226 (22) 6700(代)
FAX 0226 (23) 6100
URL http://www.sanrikushimpo.co.jp/
e-mail news@sanrikushimpo.co.jp
© 三陸新報社 2011年

東北関東大震災 災害復旧等情報

電力復旧は26%

東北電力気仙沼営業所によると二十一日までに、気仙沼市内の約四万二千戸のうち約一万千戸(約二六%)が復旧した。南三陸町は戸倉の一部約百五十戸に送電した。十一日の地震と津波で気仙沼市と南三陸町で合わせて延べ五万三千戸が停電。二十日現在も約四万五千四百戸(気仙沼市三万四千九百戸、南三陸町一万五百戸)が停電している。

水場、病院など重要施設への電力供給を行っている。松岩変電所も地震の影響で四分の一の電力しか送電できない。同営業所では「津波の影響で復旧車両が入らず、作業ができない」と話している。

二十一日に送電復旧した主な施設は国道四号田中トンネル、齊藤外科クリニック、し尿処理場。一般家庭は赤岩大滝、長柴、大石倉、前田、高前田、迎前田、四十二、羽田、上羽田、九条、後九条田中、猿掛、大曲、館山二丁目、茗荷沢、所沢、田柄、岩ヶ崎、川原崎、田尻沢、切通、田谷前、四反田、田中前の一部の地域。

完成は5月ごろ予定

市民運動公園などに50〜100戸

気仙沼

東北関東大震災から十一日が過ぎた二十二日、気仙沼・本吉地方ではライフラインの復旧作業が急ピッチで進められ、電気は約一万一千世帯に行き渡り、給水範囲も徐々に広がっている。県が沿岸部を中心に進めている仮設住宅の建設は、市内でも早ければ今月中に着工される見込みだ。また市内の中学校では卒業式が行われ、卒業生らがふるさとへの復興に向けて力強く生きていくことを誓った。

県は震災被害を受けて一万户の建設を要望した沿岸部を中心に仮設住宅の建設を進める方針で、これまで全国レベル八建設協会に対し、被災した各市町で五十〜百戸の仮設住宅建設に着手することにしている。

二十一日には同建設協会の会員らが気仙沼を訪れ、現地視察した。住宅の需要は多く、入居希望者は殺到するものとみられる。市では「入居までには希望者を対象とした説明会

仮設住宅 今月中にも着工



第11八幡丸から運び出される救援物資

船からも救援物資

きのうは八幡丸が灯油など

津波で大きな被害を受けた気仙沼港に二十一日、地元近海マクローはえ船・第11八幡丸(佐藤満広漁労長・一ノ九)が入港し、神奈川県三崎港で積んだ救援物資を届けた。午前十一時に気仙沼魚市場に着岸した船からは、灯油などの燃料をはじめ、自転車、衣類、食料などが次々運び出され、自衛隊車両に積み込まれた。佐藤漁労長によると、三崎から気仙沼までは通常四十時間弱かかるが、沖合約二百キロまで広がっている漂流物や福島原発を避けて遠回りしたため、十時間ほど長くかかったという。

この日は出張先の東京で震災のため足止めされていた船会社・八幡水産の村上純一社長も乗船し、震災後初めて気仙沼入り。「気仙沼港を再建するため、みんなで着々とやっていくしかない」と時折声を詰まらせながら話した。

船からも救援物資

きのうは八幡丸が灯油など

一方、気仙沼港には震災後、漁を途中で切り上げた地元近海船が家族の安全を確認するために続々と入港。二十日に帰港した第8福洋丸の菅原勇一漁労長は「自宅が被害を受けた乗組員は多い。出港の見通しも立たない」と不安そうに話した。

復旧の証しに
男山本店 蒼天伝しほり作業

気仙沼市魚町の蔵元「男山本店」で二十二日、地震津波被害をまぬがれた日本酒・蒼天伝のしほり作業が行われた。菅原昭彦社長は「災害を経験した酒蔵は無事でした。こんな時に酒なんてとて考えたんですが、頑張りたくて、明るい話題を張って」と話している。



「蒼天伝」のしほり作業

「ごみ・し尿」ごみ収集は、収集車が進入可能で要請があった避難所のみ行っている。「ペットの取り扱い」避難所生活の人々でペットの世話が困難な場合は、気仙沼保健所でのボランティアで預かる。犬、猫合わせて九時から午後五時まで。

各種情報

「ごみ・し尿」

出さないこと。し尿処理も要請があった避難所のみ行っている。

「ペットの取り扱い」

避難所生活の人々でペットの世話が困難な場合は、気仙沼保健所でのボランティアで預かる。犬、猫合わせて九時から午後五時まで。

「金融機関」

仙北信用金庫は緊急対応の照会窓口電話番号を設置した。フリーダイヤル0120・32・3014または、中田支店(電話0220・35・2100)まで。受け付けは午前九時から午後五時まで。

みんなでがんばろう

「需要に応えたい」

青果物流通市場が営業再開

気仙沼市田中前や上田中、田谷地内などでは、震災直後から営業を続けている店舗があるほか、電気の一部復旧とともに営業を再開するところが出てきた。物資、ガソリン不足などのために商品は入荷しにくい状況が続いているが、在庫分だけでも、食料や燃料、薬などを必要とする人たちの需要に応えている。

入荷量は震災前の1/4

市内田中前の気仙沼青果物流通市場(菅野卓夫社長)では、きのう(二十二日)から本格的に営業を始めた。十五日から愛知産のキャベツ、盛岡産の白菜やダイコンなどを入荷していた。地場物も少しずつ入り始めている。入荷量は震災前の四分の一ほどだが、今後は徐々に増えてくる見通しだという。



入荷物が増え始めてきた気仙沼青果物流通市場



数量限定での灯油販売

ガソリンは緊急車両用 灯油も限定販売

市内田谷、丸和のガソリンスタンドでは毎日、灯油を販売している。多くの人に平等に行き渡るように一人十リットル(一リットル百円)に限って、配送センターに残っていたものを配送車に詰めて販売している。佐藤博人社長代理(三)によると、ガソリン

は現在レギュラーが底をつき、緊急車両にはハイオクで対応している。二十五日に四千リットル入る予定だが、当分は緊急車両用という。佐藤社長代理は「タンクローリーがなかなか入って来ないので大変ですが、皆さんのために頑張ります」と話していた。

食料、衣類、酒、薬局、店も 田中前の酒店「小野寺屋」(小野寺正悦店長)では、地震被害は少なく、すぐに掃除をして店を開けた。妻の営業を再開した。店舗は地震、津波で被害を受けたが、商品の七割は無事だった。高橋店長は「下着や靴下などがあるので一日でも早く開けようと思っていました。少しでも協力できれば」と話している。二割引で販売している。

明るい未来切り開け

気仙沼市 小、中学校で卒業式

気仙沼市内の小・中学校では、延期していた卒業式が行われている。きのう(二十二日)に小学校二校、中学校五校で行われ、卒業生が災害に負けず、明るい未来を切り開いていくことを誓い合った。このうち、気仙沼中(齋藤一校長)では、体育館が避難所になっ



悲しみを乗り越え卒業式(気仙沼中)

歌って三年間の中学校生活締めくくった。熊谷篤史君(五)は「津波で家を失った悲しみが抜け切れていない中で卒業は複雑な気持ち。だが、ちゃんと卒業証書を受け取る」と話していた。

亡くなられた方々

再掲載 (敬称略)

- 岩淵亀男 松崎片浜
- 後藤幸五 松崎中瀬
- 佐々木信 浜町
- 佐藤美代子 新浜町
- 小野寺正子 東みなと
- 豊島圭一郎 松崎片浜
- 小松俊広 西中才
- 橋沼忠 港
- 熊谷孝 岩月千岩田
- 及川千恵 赤岩牧沢
- 近藤三子 波路上牧
- 菊田俊雄 波路上牧
- 三浦正三 波路上
- 伊藤孝之 福美町
- 尾形宏 小々汐
- 三浦千恵子 波路上杉
- ノ下
- 三浦栄子
- 横堀佳男
- 三浦悦子
- 齋藤柚乃 赤岩港
- 横山陽子 仙台市太白区
- 三浦叶宣 波路上明戸
- 鈴木セツ子 岩月台の沢
- 鈴木宗夫
- 吾妻孝行 南町
- 小野寺一栄 波路上瀬
- 向 島山忠幸 波路上杉ノ下
- 島山昭二
- 三浦幸江
- 佐藤正之
- 八重樫春代 松崎前浜
- 佐藤圭太 波路上杉ノ下
- 熊谷真紀子
- 小松栄吉 錦町
- 小松幸子 内の脇
- 佐藤明 本吉町大柵
- 村上孝夫 東みなと町
- 半沢知子 東八幡前
- 小山喜久雄 唐桑町宿
- 浦 佐藤政寿 仲町
- 小野寺米雄 南郷
- 小野寺規一 内の脇
- 小山純市
- 小野たけの 岩月台ノ沢
- 阿部敏子 内の脇

「旅立ちの日」を告。その上で「多くの人が犠牲になった中、自分たちが生き残った意義をよく考えてほしい。今は壊滅的だが、皆さんの手で気仙沼の未来を切り開いて。今日はそのスタートの日」と式辞を述べた。

【面瀬小学校】 梶原英志 赤岩老松 齋藤みわ子 東みなと 町 小野寺要三 赤岩港 齋藤瑞磨 東みなと町

【面瀬小学校】 梶原英志 赤岩老松 齋藤みわ子 東みなと 町 小野寺要三 赤岩港 齋藤瑞磨 東みなと町

【面瀬小学校】 梶原英志 赤岩老松 齋藤みわ子 東みなと 町 小野寺要三 赤岩港 齋藤瑞磨 東みなと町

【面瀬小学校】 梶原英志 赤岩老松 齋藤みわ子 東みなと 町 小野寺要三 赤岩港 齋藤瑞磨 東みなと町

【面瀬小学校】 梶原英志 赤岩老松 齋藤みわ子 東みなと 町 小野寺要三 赤岩港 齋藤瑞磨 東みなと町